



1. ショーの前日に行われたワークショップ / 2. 軽快なダンスで観客を魅了するヤングアメリカンズ / 3. 全身を使ってダイナミックに踊る / 4. 心を込めて懸命に歌う / 5. 子どもたちとヤングアメリカンズが共演し、躍動感あふれるショーを展開

「夢のステージを上げる」

音楽を通じた教育と公演を活動の2本柱とする、アメリカの非営利団体「ヤングアメリカンズ」のツアーが行われ、10月7日から12日にかけて市内を訪れました。7日、8日は保原小学校を会場に「伊達スペシャル」が行われ、市内の小中学生など約130人が参加。参加者たちは2日に渡るワークショップで、ヤングアメリカンズのメンバーと歌やダンスを練習しました。最後に、ワークショップの集大成としてステージショーを披露。躍動感あふれるショーで観客を魅了しました。また、参加者が将来の夢を発表する場面では、客席から応援の言葉が飛び交うなど、出演者と観客、全員が一体となりステージを上げました。

市長日誌「こども園等の運動会」

秋たけなわとなり、市内各地では恒例の運動会が開かれました。

当市は就学前教育の充実を図る観点から認定こども園等の整備を進めており、開園式典などには伺っているのですが、園長先生に「市長もたまにはこども達の運動会を見に来てくださいよ」とのお声掛けを頂き、久しく伺っていない事から幾つかの園にお伺いしました。

小学校などへの見慣れた運動場からはとても狭い感じですが、園児が100人から200人程度でも幼児ですから、普段はこれで十分の広さの運動場なのでしょう。でも、両親、それに祖父母までということになる大入り満員という状態で、その中で大勢の保育士さんや家族の声援を受けながら、また乳児はお母さんやお父さんと一緒にゴールしたりして、本当にアツクホームな雰囲気で見ている私も自然と顔がほころんでいます。

当市は放射能災害のため、一時戸外で子どもが遊ぶことを親が心配する時期があり、その対策として屋内運動場を整備してきました。事故後7年

目の今は外遊びについてまったく心配はないのですが、今4箇所目として伊達地区に建設中です。その理由は雨が降った時でも、また衛生上、泥遊びをさせたくない親の気持ちなどから、屋内運動場は今後とも必要であると考えているからです。屋内運動場の利用は盛況であり、市外からの来場者も多く順番待ちが出ているとの報告を受けている一方、お母さん達の交流も行われつつあることから、育児に心配のある若いお母さんの相談コーナーなど、付帯的な取り組みなども行っていくことを検討しているところです。

過日、新聞に「子どもの時に十分運動をしないと運動能力が劣る傾向にある」との調査結果が発表されました。改めて、子どもの健全なる心身の発育にとって運動や遊びは極めて重要なことであると認識させられたところです。

その意味で、子ども達が太陽の下でのびのび運動をする機会を作る運動会が大事であること、また、どんな天候の時でも運動できる屋内運動場の必要性も認識した秋の一日でした。

